

日本植物園協会 植物研究会に参加して

青山 幹 男

昭和53年10月27・28日に埼玉県花植木センターで催された日本植物園協会主催の植物研究会に参加して多くの植物を観察することができたので、研究会の内容とあわせて簡単に記録しておく。

第1日目は今回の主催園である埼玉県花植木センターを見学した。ここは植木産業の振興を目的とした施設で、生産・流通に関する調査・指導を行っている。また、見本庭園や試験栽培用の温室・圃場を併設しており、新しい花木の導入や生産技術の開発を積極的に進めている。センターを出発して、椿を中心とした花木類の生産販売を行っている長瀬花木園に立ち寄り、両神村に宿泊した。

第2日目は早朝より大滝村八丁峠までバスで行き、ここから群馬県境の八丁峠までの間で、野外観察を実施した。大滝村は埼玉県の西端に位置し、群馬・山梨両県と境を接している。ここは奥秩父溪谷として知られており、秋の紅葉と清流がすばらしい。

本地域は全域が夏緑樹林帯に含まれ、ブナ林、イヌブナ林の他にツガ林、コナラ・ミズナラ林、ケヤキ林が形成されている。

時おり小雨がまじるあいにくの天気であったが、登山口までの車窓からは、カエデやナナカマドの紅葉と澄んだ溪谷の流れを十分満喫できた。

八丁峠まではヒノキ・カラマツの植林やブナ、コナラなどの自然林の中を通る登山道で、日本各地から集まった参加者30名は数人ずつのグループになって登った。広島近郊で見るアカマツ林とは違って、数多くの種類の落葉樹が入りまじり、紅葉の状態も赤、黄、茶色と千差万別である。ここでは、カエデやツツジの種類も多く、尾根筋や岩場ではベニサラサドウダンやアブラツツジが密生した小枝に深紅の小さな葉をつけていた。下草類は霜枯れの状態であったが、シロ

ヨメナだけが白い花をつけていてとても印象的であった。

本地域に産するカエデ・ツツジ類

ヒノウチワカエデ	Acer tenuifolium (Koidz.) Koidz.
オニイタヤカエデ	A. mono Maxim. subsp. ambiguum (Pax) Kitamura
メグスリノキ	A. nikoense Maxim.
ヤマモミジ	A. palmatum Thunb. var. matsumurae (Koidz.) Makino
チドリノキ	A. carpinifolium Sieb. et Zucc.
オオモミジ	A. palmatum Thunb. var. amoenum (carr.) Ohwi
コハウチワカエデ	A. sieboldianum Miq.
イタヤカエデ	A. mono Maxim.
ミツデカエデ	A. cissifolium (Sieb. et Zucc.) K. Koch
ウリカエデ	A. crataegifolium Sieb. et Zucc.
ロミネカエデ	A. micranthum Sieb. et Zucc.
ミネカエデ	A. tschonoskii Maxim.
アズマシヤクサゲ	Rhododendron metternichii Sieb. et Zucc. var. pentamerum Maxim.
ヒカゲツツジ	R. keiskei Miq.
ヤマツツジ	R. kaempferi Planch.
アカヤシオ	R. pentaphyllum Maxim. var. nikoense Komatsu
シロヤシオ	R. quinquefolium Bisset et Moore
トウゴクミツバツツジ	R. wadanum Makino
コヨウラクツツジ	Menziesia pentandra Maxim.
ベニサラサドウダン	Enkianthus campanulatus (Miq.) Nichols. var. palibinii (Craib) Bean
アブラツツジ	E. subsessilis (Miq.) Makino
ホツツジ	Tripetaleia paniculata Sieb. et Zucc.

※このリストは本地域に産する種類をすべて記録したものではありません。



八丁峠で休憩する参加者